

Nara Women's University

『アジア・ジェンダー文化学研究』投稿規定

メタデータ	言語: Japanese 出版者: アジア・ジェンダー文化学研究センター 公開日: 2019-04-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: アジア・ジェンダー文化学研究センター メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/5234

『アジア・ジェンダー文化学研究』 投稿規程

1. 『アジア・ジェンダー文化学研究』には、ジェンダー研究に寄与する学際的な論文（寄稿論文、投稿論文）、研究ノート、講演会記録、資料、書評などを掲載する。
2. 本誌に投稿することができるのは、以下の者とする。
 - (1) 本学教職員、院生、博士研究員、センター協力研究員
 - (2) センターで行ったシンポジウムなどに関与した者
 - (3) その他編集委員会が適当と認めた者
3. 原稿は未発表のものに限る。
原稿については査読を行い、本センターのセンター員で構成する編集委員会が採否を決定する。
4. 本誌に掲載された原稿を奈良女子大学学術情報リポジトリ等、ネットワークを通じて不特定多数に無料で公開することを、著者は了承するものとする。
5. 原稿の分量は次のとおりにする。
 - (1) 論文は、12,000字以上20,000字以内の分量とする。
 - (2) 研究ノート、資料、書評は、12,000字以内の分量とする。
 - (3) 外国語論文は、4800語以上、8,000語以内の分量とする。
 - (4) 論文、研究ノートには、英文タイトル、英文要旨(300語以内)、邦文要旨(600字以内)、キーワード(3～5個)を添付する。
 - (5) 見出し、小見出し、注、文献リスト、図表までを含めることとし、これらを合計した文字数が規定の分量内におさまるようにする。
6. 原稿はデジタルデータとし、A4の用紙に記載したワード原稿とPDF原稿の両方を提出する。原稿には、タイトル(英文タイトルも添える)、著者名、邦文要旨、欧文要旨(論文、研究ノート、の場合)、注、文献リスト、図、表の順に1つのファイルにしたものを、センターの編集委員会宛(a-gender.c@cc.nara-wu.ac.jp)にメールで送付する。注と文献リストを原稿の後ろに入れ、図および表の挿入部分を原稿上に明示すること。
7. 原稿の書式の基本的な原則は以下のとおりである。
 - (1) 原稿はA4判の用紙を使って、40字×36行で印字する。
 - (2) 余白は上35mm下30mm、左右30mmとする。
 - (3) フォントは明朝体、英数字はCenturyを使用し、サイズは10.5とする。
 - (4) 注は論文全体に通し番号をつけ、本文中には半角の数字と片括弧をつける。注は文献リストの前に入れる。
例……………である3)。
 - (5) 文献は本文中に()に入れて、著者の姓、半角スペース、刊行年、コロン、ページ数の順に記載する。
例……………である(坂井 1968 : 12-15)。
8. 文献リストの記載は、著者名(アルファベット順)、刊行年、題名、出版社、ページ数の順に記載する。

(1) 雑誌論文

- ・ Matsuoka, E.2017 The Gendered Body in Family Planning in Indonesia. Gender and Culture in Asia(1):19-35.
- ・ 鈴木則子 2017「近世後期産科医療の展開と女性～賀川流産科をめぐる」『アジア・ジェンダー文化学研究』創刊号：5-16。

(2) 単行本

- ・ 柳田国男編 1935『日本民俗学』岩波書店
- ・ Martin, E.1987 The Woman in the Body. Open University Press.

(3) インターネット情報を引用の場合

- ・ <http://.....> (最終閲覧日 2017年〇月〇日)

9. 図表、写真は、図1, 表1のように順に番号をうち、それぞれの表題、出典などを記し、本文中に挿入箇所を指示すること。図表、写真を掲載する際には必ず著作権者の了解を得ること。
10. 投稿原稿の締め切りについては、毎年10月末日とし、発行は翌年の3月末日とする。

【附記】

投稿及びその他の通信は、〒630-8506 奈良市北魚屋東町 奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター『アジア・ジェンダー文化学研究』編集員会宛 (E-mail : a-gender.c@cc.nara-wu.ac.jp) をお願いいたします。

[2017年10月12日改正]

編 集 後 記

『アジア・ジェンダー文化学研究』第3号をお届けいたします。

本号は、11月24日に開催した大学改革国際シンポジウム「国際比較で見るSTEM—理系女性のキャリアパス」での講演5本を【特集】として再録しています。STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) 分野のジェンダー不平等について行った、活発な議論の一端をお読みいただければと思います。それに続いて、【寄稿論文】1本、【投稿論文】2本、第13回女性史学賞受賞記念の【講演記録】、および書評を1本掲載しています。

今号にご寄稿、ご投稿いただいた皆様、また、査読の労を担っていただきました先生方には深くお礼を申し上げます。

アジア・ジェンダー文化学研究センターでは、今年度から、ジェンダーに関する研究課題や研究会への資金助成を始めました。初年度の2018年度には2件が採択になっており、『アジア・ジェンダー文化学研究』第4号以降に、その成果が報告されることになっています。これをきっかけに、さらに充実した学術誌を目指していきたいと考えておりますので、皆様のご助力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、今年度までアジア・ジェンダー文化学研究センター長を務めてくださった松岡悦子先生(研究院・生活環境科学系教授)が、本年度をもってご退職になります。長年の功績に敬意を表し、これからのご活躍をお祈りいたします。(高岡尚子)

- | | | |
|---|--|--|
| <p>組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ● センター長
松岡悦子(研究院・生活環境科学系) ● 運営委員
高岡尚子(研究院・人文科学系) ※
水垣源太郎(研究院・人文科学系)
三成美保(研究院・生活環境科学系)
安田恵子(研究院・自然科学系) ※ | <ul style="list-style-type: none"> ● メンバー
浅田晴久(研究院・人文科学系)
内田忠賢(研究院・人文科学系) ※
大平幸代(研究院・人文科学系)
鈴木則子(研究院・生活環境科学系)
中川千帆(研究院・人文科学系)
野村鮎子(研究院・人文科学系)
松岡由貴(研究院・自然科学系)
山崎明子(研究院・生活環境科学系)
吉田容子(研究院・人文科学系) | <ul style="list-style-type: none"> ● 特任助教
磯部香 ※ ● 協力研究員
ライラ・ママティ(新疆大学)
柿本佳美(奈良女子大学・非)
姫丘とし子
安姗姗 ● 事務担当
研究協力課
※ [アジア・ジェンダー文化学研究]
No.3編集委員会 |
|---|--|--|